



遠浅小学校で実施された防犯教室（6月27日）

# 地域ぐるみで守ろう 子どもの安全!!



太田敏彦追分駐在所長

幼い生命の危機が叫ばれています

安平町でも不審者が出没

「相手は誰でもよかった」と犯人が発した言葉。無差別に子どもを狙った凶悪犯罪がマスコミで報じられ、わが子を失った家族の姿もテレビで流されています。

幼い子どもが被害者になる犯罪は都会の事件と思われがちですが、追分駐在所の太田敏彦所長に話を聞くと、「防犯体制がしっかりとってきた都市から地方に移る傾向があるのではないか」とのことです。

安平町でも不審者の出没情報が寄せられました。幸いにも大事にはいたりませんでした。しかし、この種の犯罪はいつ発生するか分かりません。特に、夏休みで子どもたちが屋外に出かけることが増え、被害に遭う機会も多くなると予想されます。

犯罪から身を守る意識を

「防犯ブザーをいつも携帯していますか」という質問に、ほとんどの小学生は、「いいえ」と答えるかもしれません。



防犯ブザーは、被害を受けそうになった時、周囲の人に気づいてもらおう手段として使用されるものです。

カバンの奥にしまつてすぐに取り出せないのでは意味がありません。大声を出して助けを呼ぶことを教わりますが、恐怖のあまり叫ぶことができないのが実態のようです。

人に道を尋ねられた時にどう対処すべきでしょうか。知らない人だからと、無視するのではなく、一定の距離を置いて会話することを勧める人もいます。相手が一歩近づくと、自分は一歩遠ざかるという具合に、常に相手との距離を保つことが大切です。

犯罪被害から身を守るには、日ごろから、どうすれば犯罪